

## 令和5年度 県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校自己評価表

目指す学校像	10年先を透徹した生徒主体の探究学習 <b>【高潔】</b> 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する <b>【誠実】</b> まっすぐ学びに向き合う、誠実で知的な学びの場となる <b>【剛健】</b> 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける <b>【協和】</b> 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
ICT・グローバル・探究の特色領域の強化と訴求が堅調に進展した。R5単位制移行・附属中1期生高校進学に向けカリキュラム刷新を行った。教育品質向上のため、教科チーム体制の下で生徒主体の学びの強化を推進した(R5以降も継続)。附属中設置から3年経ち、出向教職員を介した市町村立校からの知識移転が完了した今、中高の垣根のない6年一貫した学校づくりを始める機が熟したと言える。	<b>【生徒】</b> 21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る	グローバル教育を全校での取り組みに昇華させる	B
	<b>【学校・教職員】</b> 名実一致した合理的で生産的な教育機関となる	キャリア教育の再生を通じ、生徒の学ぶ動機を強化する	B
	<b>【地域社会】</b> 地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる	地域特性を活かし差別化された学びを提供する	A
		ゆるぎなき教科教育の質を達成する	B
三つの方針	具体的目標		
「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	10年先を透徹した生徒主体の探究学習 <b>【高潔】</b> 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する <b>【誠実】</b> まっすぐ学びに向き合う、誠実で知的な学びの場となる <b>【剛健】</b> 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける <b>【協和】</b> 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	<b>【生徒】</b> 21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る ICTを活用したアクティブ・ラーニング(自己調整学習)を推進する 多様な学びを促進する学習環境を提供する 生徒が主体性を発揮できる自由を創出する <b>【学校・教職員】</b> 名実一致した合理的で生産的な教育機関となる 学校の向かう方向性を一にする カリキュラム・マネジメントの機能を構築する 組織の生産性を高める(働き方改革) ゆるぎなき教科教育の質を達成する エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う <b>【地域社会】</b> 地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる 竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす		
「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	本校の教育課程(カリキュラム)ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移してきた人材		

## 別紙様式2 (中高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	担当部署	評価		次年度(学期)への主な課題
【生徒】21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る	ICTを活用したアクティブ・ラーニング(自己調整学習)を推進する	ICTを用いて情報提示を超えた(個に応じた/協働的な)学びを行う	学習	B	B	グループ学習が浸透。学び合いを活かす指導技術の開発・実践を行う。
		教員のコーチング/メンタリング力を強化する	管理職	A		
		生徒の自己調整学習を支援するデータ環境を構築・検証する	DX	B		
	多様な学びを促進する学習環境を提供する	いつでもどこでも円滑にインターネットに接続できるICT環境を維持する	情メ, 事務	B	B	WiFiに脆弱性が残る。特別棟長寿命化をてこに図書館機能の刷新を行う必要がある(工事期間の対策と併せて)。
		図書館機能の改善を通じ生徒の読書習慣を喚起する	情メ	C		
		中高生とも気持ちよく利用できる飛龍館にする	進路, 情メ	B		
		校外との協働が可能なワークショップ環境を構築・検証する	DX, 事務	-		
		R6(加配+2)に向けた校内環境を整備する	教務, 事務	A		
		生徒が主体性を発揮できる自由を創出する	生徒会の自治機能を強化する	特活		
	グローバル教育を全校での取り組みに昇華させる	HR, 儀式, 行事における生徒の役割を拡大する	特活	B		
		校則・内規等の内容をスリム化する	教務	A		
		4(5)技能にわたる英語指導力を強化する	英語科	C	B	目標未達も準1級合格者二桁に到達。語学から異文化交流への脱皮、英語部の強化が引き続き必要。
	地域交流・姉妹校開拓等を通じ、継続的な異文化交流の場を構築する	グロ	A			
	英語部をグローバル活動の中心として活性化する	グロ	B			
	海外交流への参加を促進する	グロ	A			
	キャリア教育の再生を通じ、生徒の学ぶ動機を強化する	キャリア教育の役割・体制を明確にする	校長	B	A	分散するキャリア教育機能の整理と統合が必要。
		社会に開かれたキャリア教育を実施する	進路	A		
	地域特性を活かし差別化された学びを提供する	高度情報教育を通じ情報分野の卓越人材を育成する	情報科	C	A	ITは量から質への転換。探究はSSH3期(申請中)のための課題解決プログラムの更新と、ファシリテーターとなれる本校教職員の育成。
		探究(課題解決)を軸とした新カリキュラムを運用する	探究	A		
		SSH第2期の成果をまとめ、第3期の応募検討・準備を行う	探究(理数探究)	A		
		探究の成果への認知を上げる客観的な実績を得る	探究	A		
多様な成果発表の場を構築する		探究	-			
地元自治体とのゆるぎない協体制を構築する		校長, 探究	A			
【学校・教職員】名実一致した合理的で生産的な教育機関となる	カリキュラム・マネジメントの機能を構築する	月次での振り返りと報告を徹底する	主任・部長	C	B	学習チームの機能と月次報告をベースにしたカリマネを一新し実効性を強化する潮時にある。
		6年一貫での学習指導方針(新Rプログラム)を開発する	学習	C		
		エビデンスベースの意思決定を行う	DX	B		
		次期(R6-R9)中期計画を描画する	校長	B		
	組織の生産性を高める(働き方改革)	業務(会議・手順・儀式等)の簡素化と断捨離を行う	教務, 主任・部長	B	A	県費・団費・助成金の財務事務の透明性を上げる必要。業務連絡、情報共有や日誌などを更にデジタル化したい。
		探究活動(地域・理数)を両立する生産的な人材運用法を構築する	管理職, 探究	B		
		人・物・金の動きを俯瞰的に把握し可視化する	事務	C		
		表簿・帳票を電子化する	教務, 各分掌, DX	A		
		情報共有を促進・迅速化する	教務, 事務	B		
		コミュニケーションのデジタル化を推進する	教務, DX	A		
ゆるぎなき教科教育の質を達成する	教科の専門性とチーム力を向上する	学習	A	B	目標未達も、研究授業をはじめ各教科チームにおける努力が見られる。授業評価等のエビデンスにもとづく計画的対策とノウハウの可視化・横展開が課題。	
	記憶の再生を超え、生徒の思考力を伸ばす	学習	C			
	質の高い生徒主体の授業を実践する	学習	B			
	ベンチマークを定めデータにもとづく到達度管理を行う	学習(進路), DX	B			
	生徒主体の特別講座(旧土曜講座)にする	学習ほか講座提供者	B			

別紙様式2 (中高)

	カリキュラム・ポリシーにもとづく6年間一貫した学びを提供する	中高のサイロを除去する	附属中	A	B	単位制を活かした教育課程を更に研究していきたい。6年間のシラバスを発行する。
		中高一貫の教育課程を開発する(3フェーズ型)	校長, 教務, 学習	C		
		6年一貫した教科目標・シラバスを描画する	学習	C		
		3フェーズ型に応じた人事・人材開発を行う	校長	A		
	エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う	国内外の難関/優良大学への進学を支援する	進路, 高3	C	C	健闘も進学目標は未達。出口対策にフォーカスした進路指導部の専門性・チーム力向上、ならびに戦術やノウハウの可視化が必要。
		各教科の思考力型問題を効率的に読み解き、論述する力を付与する	国語科	B		
		出口指導方針を明文化する	進路	C		
		受験戦術にまつわる最新の知識をまとめる	進路	C		
		探究型の学びの出口として総合型入試を積極的に活用する	進路	B		
	アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を行う	ターゲット層を定め戦略的に開拓する	管理職, A0, 教務	A	A	本年度試行したAO機能(中高)の機能設計に本腰を上げる必要。
		ターゲット層に向け学校の魅力を伝える	マケ	A		
		先進的な中高一貫校の生徒募集方法を調査・模倣する	A0	C		
	安心・安全の学校環境を維持する	堅牢な情報セキュリティを維持する	情報部	B	A	いじ防は法令に基づく運用が徹底できている。成績書類の扱い、生徒への言葉遣いなどニアミスが生じており、継続的な対策が必要。心の問題を抱える生徒が増加しており、教員研修等の対策が不可欠。部活動・親睦会の徴収金等県費外の会計ガバナンスにリスクがある。
		いじめを防止する	いじ防	A		
		生徒の心の問題に答える体制を強化する	保健	B		
		校内での生徒事故・災害を防止する	全教職員	B		
		教職員による不祥事を防止する	管理職	C		
		正確な事務処理を行う	事務	B		
		会計コンプライアンスを遵守する	事務	B		
		学検におけるインシデント(含:採点ミス)を最小化する	管理職, 学検委	A		
		インシデントやインシデントを予防するための生徒情報を速やかに報告する	保健, 全教職員	B		
		「ほうれんそう」と起案を徹底する	全教職員	A		
【地域社会】 地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる	地域人材を活用した、開かれた教育を推進する	OB / PTA の学校運営への関与を強化する	マケ(渉外)	B	A	保護者提案のキャリアイベントを開催。生徒によるSNS発信を開始。茶話会の定着と生産性向上が課題。
		社会に開かれたキャリア教育を実施する	管理職, 進路	A		
		生徒による校外への表現・発信活動を強化する	探究, 放送委員会	A		
	竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす	市町村教委・学校との円滑な関係を維持する	附中教頭	A	A	ICT、探究などニュースが目白押し。学校広報の機能を強化し、一貫した質の高い対外コミュニケーションを行う必要。
		成果を再利用に供することで日本の教育を底上げする	探究, 情報科, 英語科, グロ	A		
		HP, SNS, ML などを通じ竜一の価値を発信しつなかりを醸成する	マケ	A		
		学校運営についての対外的な説明責任を強化する	校長, マケ	C		
	コミュニティごとの双方向コミュニケーションの場を構築する	DX	C			
	地域に支えられた持続可能な部活動に転換する	適正な部活動運営を行う	特活	B	B	継続的なガイドライン遵守と地域移行の検討。
	国語	附属中 現代文では漢字力と語彙力を、古典では文法・句法を中心に、基礎学力を確立させ、国語に対する興味関心を育てる。	年間を通して小テストによる振り返りを実施し、語彙力・国語に対する基礎学力を身につけさせる。		A	B
現代文の授業において、論理的に文章を読解する技術を身につけ、文章に積極的に取り組む姿勢を育てる。				B		
古典に対する興味関心をもたせつつ、基本的な文法事項や句法についても理解させる。				B		

## 別紙様式2 (中高)

	1年 評論文、実用的文章、小説、古文、漢文を読むための知識及び思考力の基礎を養う。	読解や思考の前提となる語彙力を高める。また古典では正確に文法を理解する。 ICTなども活用して、論理的に文章を読解し思考する力を育てる。 文学的文章の読解や言語活動を通して、思考の幅を広げる。	B A B	B	語彙・文法を定着させ、文化的な背景等の知識とあわせて思考に幅広く活用できるようにしていく。		
	2年 現代文・古文・漢文のそれぞれの応用力を育成、進展させる。	各分野を計画的に学習させ、基礎から応用へのステップアップを図る。 現代語・古語の語彙力を確かなものにする。 授業や考査の中で大学入試を意識した問題の扱いを徐々に増やし、受験に対応できる学力を身につけさせる。	A B B	B	最終学年へ向け、客観的なデータ分析、学習計画の修正を行いつつ、生徒に寄り添っていく。		
	3年 現代文、古文、漢文の受験に対応した学力を完成させる。	受験を意識した授業の実践を心がける。 小論文や評論に対応した、幅広い知識を身につけさせる。 知識問題についての段階的指導を完成させ、入試に対応する実践力を高める。	A B A	A	1年次から語彙力の増強を計画的に行ったことが、共通テストでの好結果につながったと考えている。		
	授業満足度の平均値が3.2(アドバンスコースは3.4)以上	前期アンケート結果に基づき、後期の授業改善へと結びつける。	A	A	アンケート結果の内容を検討し、改善していく。		
地理歴史 ・公民・社会	附属中 基礎的な学習内容の習得と、主体的に学ぶ姿勢を身につける。	授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。 生徒それぞれの個性や興味関心に合わせた動機づけを意識しながら、主体的に学ぶ意識を育成する授業展開を行う。	B A	B	新課程入試に対応した体制を整える。地理総合、日本史探究、世界史探究の実践の成果の共有・深化を進める。		
	1年 重要概念の理解および概念を利用して思考・判断できる能力を育成する。	積極的なICTの利用、および生徒主体の学びの手法を研究し、探究的学習の実践を通じた、重要概念の理解と思考・判断の能力育成をはかる。 新課程科目(歴史総合・公共・地理総合)における実践の成果、および評価の手法の、共有・深化を進める。	A B				
	2年 1年で獲得した能力を基盤として、受験に対応できる学力を育成する。	ICTの利用を積極的に進めつつ、主体的な学びの手法を発展、継続させることによって、論理的思考に裏づけられた内容の理解をめざす。 地理歴史・公民における論理的理解を基礎として、受験に対応できる知識の確実な習得と定着をはかる。	A B				
	3年 主体的な学びの意識を継続したまま、受験に対応した学力を確立する。	過去のセンター試験や共通テストならびに大学入試問題等を十分に研究してその成果を教員間で共有し、学習指導の改善をはかる。 論述問題への対策が必要な生徒に対しては、個別指導を中心に高度な問題に対応できる能力を獲得できるよう支援する。	A A	A		新課程に向けて引き継げるものとそうでないものの選別を図る。	
	授業満足度の平均値が3.2(アドバンスコースは3.4)以上	教材研究と教員間の研鑽を進め、アドバンスコースにおいては高度な内容の問いかけと生徒主体の授業の試みを実践する。	A	A		問いかけの質を高め、生徒の思考力を鍛える。	
数学	附属中 様々な数学的な見方や考え方を学び、数学に対する関心や意欲を高め、学習習慣を身につけ、中学校数学の基礎を固める。	日々の授業において、内容を精選し基礎の確実な理解と定着を図り、それを基に思考力・判断力・表現力の伸長を図る。 授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。 定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。	B B B	B	学習指導要領の範囲内はよく定着できているが、それを超える応用力には課題を残した。		
	1年 様々な数学的な見方考え方を学び、数学に対する関心・意欲を高め、学習習慣および高等学校数学の基礎を固	日々の授業においては、内容を精選し基礎の確実な理解と定着や習熟に応じた発展的な内容を探究的に取り組ませる。 デジタル機材を通して、教材表示や、課題配布を行う。 授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。	A B B	B	数学ⅡBで学力が低下する生徒が多いことを踏まえ、生徒が本来もっている数学的な力を十分に引き出し、		

## 別紙様式2 (中高)

	める。	定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。	B		真の学力を定着・向上させることが課題である。	
	2年 科目の重要性を生徒に意識させ、きめ細かい指導の下、授業内容を確実に定着させる。	学習に取り組みやすく、理解を深められるように、授業展開や進度の工夫を行う。	B	B	進路実現に向けて、計画的な学習習慣を確立する。また、大学入試に対応できる思考力の育成を目指す。	
		年間を通じて、精選した課題を与え、生徒の取り組みを徹底させる。	B			
		授業進度に合わせ定期的に小テストや章末テストを実施し、基礎学力の定着と向上を図る。	B			
	3年 生徒の進路実現に向け、大学入試に必要な学力を身に付ける。	大学入試を意識した授業を実践する。	B	B	次年度からの新課程入試に対応できるように指導計画を立てる。	
		各テストを通して、計画的な学習を支援する。	B			
		各分野の問題演習を通じて、大学入試に対応できる能力を養う。	A			
	授業満足度の平均値が3.3(アドバンスコースは3.5)以上	前期アンケート結果に基づき、後期の授業改善へと結びつける。	A	A	授業満足度の目標値をクリアすることができた。	
理科	授業内容を深化させ、各生徒が希望進路を実現できる基礎学力の向上を図る。	シラバスに沿った授業展開を心がけ、担当者間のコミュニケーションを積極的に行う。授業研究を有効に活用していくことを心掛ける。	B	B	担当者間で連絡を取りながらより深い授業を行うこと。 さらに家庭学習の定着を図りたい。 個別指導にかけける時間をさらに伸ばしていくことを心掛けること。	
		生徒にとって適切な内容・分量の課題を行わせることや、小テストによる振り返りを通して学習習慣の確立を図る。	A			
		必要に応じ、担当者が個別面談・指導を行い、より高いレベル(難関大学対応)での学力を身につけさせる。	B			
	自然や自然現象に対する興味・関心を高め、知識の活用能力と思考力を高める授業展開に努める。	観察・実験をバランスよく実施し、実物に触れることにより、興味・関心を喚起し、基礎的概念理解の深化を図る。	B	B	より良い内容の実験・観察を考案していきたい。 SSH 事業に関わる自然現象のしくみについて初期指導していきたい。 ICT 活用に対してはさらに工夫を重ねること。	
		SSH 事業と連携し、日常現象と科学との関連を取り上げることにより、科学への興味・関心を高め、知識の活用を促す。	A			
		ICT を活用して質の高い生徒主体の授業を実践し、授業への興味・関心を高め、より深い思考力を育てる。	B			
	授業満足度の平均値が3.2(アドバンスコースは3.4)以上	生徒の学習に対する積極性を高めていくこと。学習の理解度・到達度等に関してアンケートを用いて確認し、授業の展開方法を担当者間で密に話し合うことを心掛ける。	A	A	授業満足度の目標値をクリアすることができた。	
	保健体育	各種の運動の合理的な実践及び相互理解・尊重の態度を育む。	自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動を合理的な方法で身につけさせる。	B	B	個人及び社会生活における健康・安全について理解を含め、積極的に運動に取り組む姿勢を身に付けることができた。
			各種の運動の合理的な実践を通して自己の課題を見つけ、解決できる能力を身につけさせる。	B		
各種の運動を通しての相互理解・尊重の態度を身につけさせ、コミュニケーション能力を育てる。			B			
熱中症や怪我を防止するため、安全管理に留意して授業を行う。			A			
健康に対する意識・実践力を育む。		健康に対する知識や実践力を養い、課題解決能力を身につけさせ、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。	A	B	健康を保持増進するために具体的な取り組みを考え、ICT を使って興味を引き出し、より深く学ぶことができた。	
		社会生活及び各個人の生活における健康・安全管理について、課題の解決に役立つ基本的な知識を理解する。	B			
		ICT を活用して視聴覚教材を積極的に提示することで、授業への興味・関心を高め、より深い理解を促す。	B			
授業満足度の平均値が3.5(アドバンスコースは3.5)以上	ICT を積極的に用いながら課題解決の意欲を高めていくことで種目の持つ特性や魅力に触れ、運動の楽しさや喜びを促す。	B	B	ICT 活用がワンパターン化しないよう工夫する。		
芸術	芸術を愛好する心情を育てる	表現及び鑑賞の活動において、ICT を効果的に活用する	A	A	ICT を効果的に活用し、多	

## 別紙様式2 (中高)

	とともに、芸術の諸能力を伸ばし芸術文化についての理解を深める。	多様な芸術表現を経験する中で、他者と協働しながら表現を生み出したり、表現したりするための技能を身に付ける。	A		様々な芸術体験を経験させ、芸術への興味・関心・感性を高める授業に努める。
	授業満足度の平均値が3.5(アドバンスコースは3.5)以上	日本や諸外国の芸術作品を鑑賞し、理解を深める。	A	A	
英語	附属中 英語に対する意欲及び興味・関心を高め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4領域について基礎学力の定着を図る。	毎週の単語小テストで振り返りつつ定着させることで、基本的な語彙を身につけさせる。	B	B	コミュニケーション活動を多く行い、4技能を向上させることができた。文法、語彙の指導を更に充実させられるよう努める。
		基本的文法事項を習得させ、英文を読む力と書く力を培う。	A		
		授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。	B		
		ALTとのチームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	A		
	1年 主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能5領域について基礎学力の定着を図る。	BYOD端末を活用し、効果的なライティング活動を取り入れる。	A	A	ALT4人の常駐となったことにより、ライティングやスピーキングのテストを今までより頻繁に行うことができた。
		ICTを活用し、国内外の情報を授業に取り入れる。	B		
		教員間の連携を強化し、指導の明確化や生徒の適切な評価につなげる。	A		
		ALTとのチームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	A		
		外部英語検定受験を奨励し、CEFR A2レベル(英検準2級以上)の力を身に付ける。	A		
		ディベート活動やオンライン英会話を通して、思考力と表現力を身につける。	B		
	2年 主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能5領域について学力の向上を図る。	毎週の単語小テストで振り返りつつ定着させることで、大学入試に必要な語彙を身につける。	A	B	授業の指導方法の改善等により、基本的な知識・技能の習得に加え、思考力や表現力を駆使したスピーキング力やライティング力も向上した。
		基本文法事項を習熟させ、英文を読み要約する力と、論理的に書く力を高める。	A		
		授業や家庭学習でのリスニング学習を定着させ、英語を聞く力を養う。	B		
		ALTとのチームティーチングを通して、自然な英語表現を使って自己の考えを述べる力を身につける。	A		
3年 英語運用能力を修め、進路実現に必要な知識を習得する。	平常の授業において、受験に対応した総合的な学力を高めさせるとともに、新しい入試形式を研究し、対応できる英語力の育成を図る	A	A	TTの活動を受験指導に有効につなげることができた。	
	各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。	A			
	生徒の状況に応じた課外授業及び個別指導を実施する。	A			
	授業・指導法の研究に努め、平常授業の充実を図る。	B			
授業満足度の平均値が3.3(アドバンスコースは3.5)以上	互見授業や授業者間の意見交換による授業改善を通して、生徒のやる気や知的好奇心を引き出す授業を実践する。	A	A	少人数指導の実践を今後とも継続していく。	
家庭	家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	実生活に即した具体例の提示や実践活動を通して、家庭のあり方や家族関係についての基礎基本を習得する。	A	A	自立解決力の向上とさらなる技能の向上を目指す課題、実習の内容を取り入れていきたい。
	家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力を育成する。	生活の中心から課題を発見し、解決するための事例研究を行い、学びを深める。	A	A	今後も新分野(成人、金融教育)まで視野を広げ、課題発見の着眼点の拡張と、解決法の深化を目指していく。
		ホームプロジェクトの実践を通して様々な討論法による自己表現力の向上と自己理解を通じた課題解決を図る。	B		
生活の充実向上を図る力と実	ICT機器等を利用し、事例や演習の充実を図り、生徒が主体的に取り組む態度の育成を図る。	A	A	さらにICT機器の活用幅	

## 別紙様式2 (中高)

	践的な態度を育成する。	実生活を振り返り、各分野にわたり生活の充実と質の向上の観点から考察できる能力態度を身につける。自立し生活する能力を習得する。	B		を広げ主体性を引き出す場面を工夫するとともに、満足度の高い授業を目指す。
	授業満足度の平均値が3.2(アドバンスコースは3.3)以上	授業の理解度、実習の進捗度の把握に努め、個に応じた指導の徹底を図る。主体性を引き出せるような課題設定、発問に努める。	A	A	目標値はクリアできた。個々の達成感をさらに高めていきたい。
情報・技術	生徒のICT活用能力を育て、それらを積極的に問題解決に活用しようとする態度を身に付けさせる。	Google Suiteの機能を活用した問題解決能力を育成する。	A	A	より一層の教科横断的、総合的な授業を実践していきたい。
		プログラミングとそれを用いた問題解決能力を育成する。	A		
		教科横断型の授業を実施し、深い学びを実現するとともに、生徒にICTを学習および生活に活用する態度を育成する。	A		
	生徒に情報技術や情報社会について理解させるとともに、様々な場面で適切な判断や行動ができるようにする。	情報技術に関する本質的で深い理解を促す授業を実践し、試験に対応できる十分な学力及び思考力を育成する。	A	B	生徒自身が、更に情報技術を活用して生活を豊かにできるように、活用を考えさせていきたい。
		情報を適切に扱い、表現できる情報デザインの知識と技術を身に付けさせる。	B		
		情報技術の活用や、情報社会での生活における正しい態度と行動がとれるように、具体的な場面で指導する。	B		
生徒の探究活動に必要な資質、および能力を育成し、社会参画の意欲および起業家精神を育てる。	AIなどの先端的技術を理解し活用する授業の実践を行う。	A	A	AIの効果的で適切な活用を更にすすめて、生徒の活動に資するようにしたい。	
	身の回りや地域の課題を解決する情報技術の提案と実装を行う実践的授業を行う。	B			
	公的統計データを含むデータの活用と分析を行う授業を実践する。	A			
授業満足度の平均値が3.0以上	授業ごとのアンケートや小テストを通じて生徒の理解度と疑問点を把握し、コメント機能なども用いて問題を解決できるようにする。	A	A	より多くの生徒が成長を実感できる授業を行っていきたい。	
附属中	基本的生活習慣の確立	服装や言葉遣い、時間やルールへの遵守を中心に、自律した学校生活を送れるよう、授業や学校行事、休み時間等を通して、教員間や家庭と連携して生徒の社会性が育つよう指導する。	B	B	心身の不調を訴えて休む生徒もいるが、附属中の職員間で連携し、面談を密に行い、改善傾向となったケースがあった。
	学習習慣の確立と学力の向上	面談やICTを活用し、予習・復習や家庭学習の状況を把握し、個の能力や環境に合わせて適切に指導する。 生徒の興味や関心、個性を教育活動で引き出し、コンテスト等何事にも積極的かつ献身的に挑戦しようとする機会を設ける。 少人数学習の実施やICTの活用を通して、個に応じた学習指導を展開する。 中高一貫教育校の強みを活かして、学習の先取りや深い学び、異年齢学習、探究的な学習を実践し、生徒の能力の伸長を図る。	B	B	きめ細やかな指導を心掛けているが、中学入試の特徴もあり、低学力の生徒が入学してくる可能性がある。
	進路指導の充実	探究活動ならびに企業・研究所訪問や外部講師による講演会、模擬授業等を通して、知識や思考力の向上を図るとともに将来の職業について考えさせ、憧れのイメージをもたせる。 語学研修やICTを用いた海外の中高生等との交流により視野を広げ、世界に羽ばたく人材の育成を目指す。	A	A	中学は職員全体で探究を指導する体制ができている。
	心身の健康管理	複数担任制を展開し、多感な年齢の生徒のみならず不安を抱える保護者へのサポートの充実を図る。 年間3回以上の面談を実施する。また、教員間や保護者、スクールカウンセラーと連携し、生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるよう支援する。	B	B	担任・副担任・学年主任とも生徒指導面で多忙であったが、連携して取り組めた。さらに強化したい。

## 別紙様式2 (中高)

	働き方改革	公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン(文部科学省)に則り、在校等時間(校外での勤務を含む)について1か月の超過勤務45時間以内、1年間の超過勤務360時間以内を目指す。そのために原則定時の出退勤と有休・代休の消化を心掛け、中学・高校を通じた業務の共通化、仕事の精選と分散、ICTの活用等で会議や仕事の効率化・生産性を向上させる。	B	B	業務の精選に努めてはいるが、新規の業務が多くゆとりは感じられない。
1年次	生活習慣の確立とコミュニケーションの促進	挨拶の励行や、時間・期限の厳守等、凡事徹底を図り、安定した生活習慣を確立させる。また、教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションを促進し、学年内の人間関係を活性化する。	A	A	1年間で人関係の構築ができた。
	基礎学力の定着と自立学習の充実	初期指導の充実を図り、授業を中心とした予習復習のサイクルが確立できるよう、授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。	B	B	基礎の定着だけでなく、思考力を育成し、新課程・新傾向の問題に対応できる力を身につけさせるよう努めていく。 次年度も継続していく。
		生徒が授業内容を確実に定着できるよう、各教科で連携して課題の量を調整するとともに、ICT端末を活用した学びを積極的に取り入れて、学習意欲と協働的学習の質の向上を図る。	B		
		手帳を活用しながら、自主的に計画を立て行動する力を身につけさせる。 (アドバンスコース)内進生と高入生による多様性を活かし、生徒主体の学びを開拓する。	B		
			B		
	進路指導の充実	LHRの時間を中心として、進路意識が高められるように年間計画を立案し、将来の目標や職業観などを育む指導を行うとともに、2年次の文理コース選択に向けて適切な指導を行う。	B	B	特にFMTにて、各所へ実際に訪問できたことは大いに生徒の刺激とすることができた。 生徒の心身状況については、問題を抱える生徒を中心にケアを継続していく。
進路指導部や探究部、DX、グローバルと連携し、生徒の進路目標の設定に意義のある行事を企画・実施する。		B			
生徒の勤労観・職業観を育むために、卒業生やPTAと連携した講演会を企画・実施する。		B			
心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに、健康的な学校生活が送れるよう、保健部やスクールカウンセラー、保護者と連携しながら、生徒個々の問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。	B			
第2学年	生活習慣の確立とコミュニケーションの促進	挨拶の励行や、時間・期限の厳守など、凡事徹底を図り、安定した生活習慣を確立させる。また、教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションを促進し、学年内の人間関係を活性化する。	A	A	学校行事を通じてコミュニケーションは活性化した。
	学習習慣の確立と学力の定着	授業を中心とした予習復習のサイクルの確立と家庭学習時間の確保ができるよう、授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。	B	B	英数国を中心に学力の現状や学習習慣、学習バランスについてデータを収集し、分析結果を生徒に提供した。昨年同様に探究活動も活発に実施できた。
		生徒が確実に学習内容を定着できるように、各教科で効果的な指導法を工夫するとともに、ICTも用いて、質の高い授業を提供する。	B		
		手帳などを活用しながら、生徒自身が主体的に計画を立て行動する力を身につけさせる。	B		
		全てのコースにおいて探究活動に取り組みせ、論理的思考力、問題解決能力を向上させる。	B		
	進路指導の充実	LHRや進路行事(学部・学科研究やRガイダンス)などを通じて進路意識を高め、自分の進路希望を具体化させる。	A	B	修学旅行を終えてすぐに進路へ向けた集会や講演会を実施し、生徒の意識を高めた。引き続き様々なデータも根拠に、生徒に情報の共有も行いつつ、進路指導を行っていきたい。
		進路指導部と連携し、新課程入試に関する情報を収集し、生徒・保護者に適切に提供することで、少しでも安心して大学受験に臨めるよう配慮する。また、積極的に模擬試験を活用し、新課程入試への準備・分析を進める。	B		
進路指導部、探究部、グローバルと連携し、様々な入試方法で国内外の難関/優良大学への進学を目指せる体制をつくり、生徒の進路実現の可能性を広げる。		B			
心身の健康管理	生徒一人一人が安心して健康的に学校生活が送れるように、保健部や保護者、スクールカウンセラーと連携し、諸問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。諸問題にはいじめの防止も含む。	B	B	問題を抱えた生徒に対しては、カウンセラーも含めて、組織的に対応した。	
働き方改革	業務の見える化を行い学年内で適切に業務を分担することで、個々の職員が力を発揮できる学年環境を整える。	A	A	昨年よりも業務の分担が適切であった。	
第3学年	学力の向上	2年次までの取り組みを継承し、予習・授業・復習のサイクルの重要性を踏まえながら、さらに発展的学習に自主的に取り組む姿勢を養う。	A	A	課外授業・個別指導の充実
	学習習慣の確立と基礎学力の	各教科で、年度当初から入試を意識した指導を行い、適切な時期に、適切な課題・指示を与え	A		各主要大学の出題動向を研



別紙様式2 (中高)

定着 基本的な生活習慣の確立	るように努め、学年教科担当者が相互に連携をとりながら、学習意欲の向上を図る。		A	究する時間や仕組みの創出  手帳の管理と受験計画を連動させるための工夫
	定期考査・模擬試験の結果分析、大学入試問題の出題傾向の分析結果を授業に反映させ、授業内容の充実を図るとともに、受験勉強のペース・指針を生徒に示し続ける。	A		
	最上級生として、後輩の模範となるよう規律ある生活に努め、学校行事や部活動において、それぞれの持ち場で中心的役割を果たせるよう支援する。	A		
	手帳を活用しながら、学習を中心とした毎日の生活習慣を自己管理させるとともに、長期的な目標にむけて自主的に計画を立て行動できるよう支援する。	B		
進路指導の充実	生徒の学習成績や進路情報を学年で共有し、生徒や保護者に有効に提供できるようにする。	A	A	探究活動などの校内外の主体的活動の推奨（主体性評価の意識）
	LHR、学年集会、講演会等を通して、入試や志望校の研究に努め、目標に向かって邁進する環境・雰囲気醸成する。	B		
	生徒との面談や保護者との意思疎通を密にし、必要に応じて学年外の職員の協力を得ながら、適切な進路指導ができる態勢をつくる。	A		
心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し、生徒の問題の早期発見に努め、教育相談部や養護教諭、保護者と連携しながら適切な支援を行う。	B	B	学習時間調査内「悩み事調査」の活用

※ 評価規準：A（達成された）、B（ほぼ達成された）、C（達成されなかった）